

# 札幌市立もいわ幼稚園

〒005-0015

南区川沿18条2丁目1番13号

## 【藻岩南小学校との交流及び連携】

隣接する藻岩南小学校とは、小学校開校以来、34年間交流している。近年は、連携プロジェクトチームを立ち上げ、年間計画について話し合うとともに教育課程に位置付けて交流活動を進めている。

### (1) 幼児と児童の交流活動

- ・年中児と2年生(年5回)
- ・年長児と4年生(年5回)
- ・ぼっぼまつりへ1年生を招待
- ・特別支援学級の児童を観劇会へ招待
- ・発表会児童観覧日への参加

### 【成果】

- 交流を重ねることで、園児は小学校や児童への親しみや憧れの気持ちが増し、交流や訪問を楽しみにするようになった。
- 交流の事前事後の活動では、相手を思い招待状や手紙、プレゼントなどを作成するなど心情面を育んだり、生活経験を広げたりする機会となっている。

### (2) 教師の合同研修

- ・年度当初に全教員でのグループディスカッション
- ・幼稚園公開研への小学校教師の参加
- ・1年生の授業参観・意見交換

### 【成果】

- 教員同士が顔見知りになることで、気軽に話ができる関係となり、幼小交流の打合わせがスムーズに進み、互いの意見や情報を交換しやすくなった。
- 授業や保育を参観して意見交換をすることで、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点についての理解へとつながり、子どもの発達や学びの連続性についても再認識できた。

### (3) 小学校施設の利用

- ・体育館・図書室・グラウンド・プール・畑の借用・ウサギ小屋見学
- ・水田借用(教頭先生によるゲストティーチャー)
- ・合同避難訓練・給食体験(年長児)

### 【成果】

- 小学校の施設を利用することで、より身近に感じられるようになるとともに、学校生活の流れの一端を知る機会となり、小学校生活に安心感と期待感をもつことにつながっている。

### 【考察】

- 幼児と児童の交流活動においては、より一層有意義な活動となるよう、育ちや学びにおけるねらいや目標、留意点について幼小全教員が共通理解できるような交流指導計画などを作成していきたい。
- 合同研修においては、互いに授業や保育を参観し率直な意見交換をする関係性はできたが、理解を深めるために、今後も内容の充実を図りながら継続していきたい。



#### <ジャガイモパーティー>

小学校敷地内の畑で園児が栽培したジャガイモを2年生が調理してくれました。小グループで、一緒に食べることで、より親しみが増したようです。



#### <年中児と2年生>

- 1 小学校へ行く  
～初めての出会い～
- 2 幼稚園で一緒に遊ぼう  
～2年生と園庭で遊ぶ～
- 3 収穫物を一緒に食べよう  
～ジャガイモパーティー～
- 4 2年生の作ったおもちゃで遊ぼう  
～製作を楽しもう～
- 5 雪遊びをしよう

#### <年長児と4年生>

- 1 幼稚園の子ってどんな子  
～幼稚園教諭のゲストティーチャー～
- 2 幼稚園で遊ぼう  
～ペアになって一緒に遊ぶ～
- 3 小学校で遊ぼう  
～4年生の考えた遊びをグループで～
- 4 4年生がパーティーを企画  
～ハロウィンパーティー～
- 5 雪遊びをしよう

#### <幼稚園で遊ぼう>

幼稚園教諭がゲストティーチャーとなって4年生に園児のことを伝えてから、初めての交流。園児はペアになった4年生と一緒に遊びました。初めは緊張気味でしたが、4年生に優しくしてもらい次第に楽しくなったようで、安心して関わることができました。



#### <幼小合同避難訓練>

小学校へ二次避難。園児にとっても、避難時の緊迫した雰囲気を感じることができました。

# 札幌市立南小学校

〒005-0031

南区南31条西9丁目2番1号

## ようちえんのおともだちと

### 札幌わかくさ幼稚園との交流

わかくさ幼稚園は、本校の校区にある唯一の幼稚園です。年長さんとの交流会は生活科の学習に位置付けており、子どもたちは楽しみにしています。今年度も、光華保育園も加わり、「幼保小」がすべて揃った形での交流が実現しています。

交流の中で一番大切にしていることは、「相手意識」や「思いやり」、「憧れ」といった心を育み、自分の成長に気付かせることです。

#### 【重点目標】

進んで考え ともに学び合う心を育む



学習発表会の練習を見学後、幼稚園と保育園のお友達から歌や踊りのプレゼントがありました。

#### 【1年間の活動】

6月 こうえんであそぼう 7月 いっしょにつくろう 10月 学習発表会にご招待  
12月 学校たんけん 2月 おみせやさんごっこ・給食交流



#### 6月 公園で遊ぼう！

「一緒に遊ぼう！」

公園の中で虫捕りをしたり、草で遊んだり、最後は鬼ごっこ。

## ともに学び合う心の育み

#### 【交流のよさ】

「自分から話せたよ」 ➡説明がうまくできた。

※喜んでくれた、わかったよ・ありがとうって言われたよ。

「思いやり」 ➡小さい子の分かるような話し方の工夫

「関わる喜び」 ➡初対面の子と遊ぶのも、「楽しいね！」

※交流を重ねるたびに、友達が増えていく喜び。

## 心の充実



#### 8月 一緒に作ろう！

「どのように書きたい？」

顔を突き合わせて、話しながら決めよう！

#### 【交流のこれから】

◎交流の時期や内容の工夫

◎継続を意識した計画

◎幼保とのバランス

## 学びの充実



#### 12月 学校たんけん

「上手に教えられるかな？」

お互いにドキドキしながら出発！

# 札幌市立澄川小学校

〒005-0005

南区澄川5条4丁目1-1

## 【澄川保育所との連携】

- ・澄川保育所との連携は、10年程前から行っている。始まった経緯は、本校から一番近い保育所であったことと入学してくる1年生の数が毎年一番多いということが関係している。新入学児童についての引継をする中で、所長さんや主任さんと話す機会が増え、お互いにとって利点がありそうだとということで始まった。
- ・今連携している内容は、大きく分けて二つある。一つは、本校の1年生が行う澄川フェスティバル。もう一つは、花のプレゼント交換である。



【澄川小で行う澄川フェスティバルに  
保育所の年長児が参加している】

### ～澄川フェスティバル～

毎年12月に行っている澄川フェスティバル。本校の1年生が体育館でお店を開き、そこで、年長児がいろいろな遊びをする。楽しい小学校生活をイメージしてもらうことや1年生と年長児が仲良くなることをねらっている。毎年、温かい雰囲気の中での交流が行われている。

### ～花のプレゼント交換～

毎年、6年生が春から育てたマリーゴールドを、7月に保育所まで持って行ってプレゼントしている。保育所では3か月間お世話をしてくれ、秋にそのマリーゴールドを押し花にしてしおりを作ったり染め物をしたりして6年生にプレゼントしてくれる。

花を通して保育所と小学校が結び付き、笑顔溢れる様子がたくさん見られる。

## 【成果】

- ・毎年、保育所の年長児が楽しみにしてくれている。また、1年生は、普段は小学校で最年少であるが、この時は先輩として優しく教えたり一緒に遊んだりする頼もしい姿が見られる。
- ・花を通して、相手を思いやる気持ちや優しさが育っている。

## 【課題】

- ・子どもの交流だけでなく、教職員の交流をさらに進めてもよいと考えている。



【保育所で、6年生が年長児に  
花をプレゼントしている】

## 【西岡高台保育園との交流】

近隣の西岡高台保育園の園児と本校の5年生が、年に3回の交流を行っています。6年前に市立すみかわみなみ幼稚園の閉園に伴い、新たな連携先を探していたところ、本校の要望を快く引き受けていただいたことで始まった交流です。

取組が始まって5年が経過しましたが、毎年保育園の施設見学から始まり、保育園へ訪問しての園児との交流や、園児を小学校へ招いての交流などを通して、本校の重点である「相手意識を育てる」学習として欠かせない取組となっています。

### 【成果】

普段は接することのない保育園児との交流。

活動が始まると、最初のうちは、どう接したらよいか戸惑いながら右往左往する場面もありますが、園児にとって分かりやすい言葉で話しかけたり、視線を合わせながら手取り足取り教えたりと、次第に優しく接する姿がたくさん見られるようになります。

普段「誰かのために。」という意識をあまりもてずに過ごしていた児童も、しっかりと相手（園児）を楽しませたい、喜んでもらいたいという意識をもって真剣にアイデアを出し合い、工夫して取り組む姿が見られました。

異年齢での交流は、本校の目指す相手意識や、コミュニケーションの力を伸ばすことにつながっています。

保育園の先生の説明に一生懸命耳を傾ける子どもたち。「階段がゆるやかだね。床も柔らかいよ。」



### 【考察】

今後は、時間設定の難しさはありますが、他の幼稚園や保育園とも交流し、子ども同士の交流のみならず、教師同士の交流にも取り組んでいきたいと考えています。

## 【いしやま中央幼稚園との連携】

近隣にある、いしやま中央幼稚園との交流を長年続けている。毎年、数名が本校に入学してくる。今年度の交流は、2学期始めに2回、本校の5年生と幼稚園年長組の園児との交流をそれぞれの学校と園を会場として行った。12月には、児童が主体となって取り組む「ふれあい子どもまつり」に招待し、子どもたちのアイデアを生かした遊びのコーナーでのふれあいを通し全体交流を深めてきた。

まず、24年度から取り組み、今年度も実施した5年生といしやま中央幼稚園の年長組との交流を報告する。相互に学校や園を訪問し交流を深めるために2回実施することを計画した。

8月31日の1回目の交流では、いしやま中央幼稚園を訪問し、リズム運動を経験した。先生の指示できびきびと行動する園児の姿に目を見張り、また園児とともにテンポ良く次々と運動を楽しんだ。

2回目の交流は、9月24日に本校で実施した。園児を迎えるに際して、5年生が交流内容を学級でよく話し合い、体育館での色々な集団遊びの計画を立てた。園児たちと一緒に遊ぶことで、より親しみを感じることができた。

次に、12月8日に実施した本校の「ふれあい子ども祭り」での交流についてである。年長組2クラス49名が来校し、いろいろな遊びのコーナーを回り、本校の児童は、園児たちに積極的に呼び掛けたり、遊び方を優しく説明したりしていた。幼稚園児が参加しやすいようにコーナーの内容を工夫するとともに、分かりやすく説明するよう心掛けている様子が見られた。



小学校で集団遊びをしているところ

## 【成果】

幼稚園児にとっては、一日入学よりも早い時期に小学校を訪れ、高学年の児童と触れ合うことができ、5年生にとっては、幼児への接し方が分かり、やがて最上級生になるという意識付けができた。1回目の交流で、5年生と一緒に運動することで園児に親しみをもつとともに幼稚園や園児への理解を深めた。この訪問時に本校へ入学予定の園児を知らせていただき、引率者がその子の様子を知ることができた。2回目の交流で、相手意識をもって計画することの大切さ・園児への接し方を学んだ。相互に訪問し、それぞれが計画を立て交流を深めることができた。

子ども祭りで、全校児童が交流できたことが良かった。また、園児が参加してくれたことで子ども祭りが盛り上がり活動を楽しめるものにする事ができた。

## 【考察】

5年生といしやま中央幼稚園との相互交流が定着し、教育活動の中に位置付けられるようになった。また、園児たちを迎える計画をアイデアを生かしながら立て、その内容にもよく工夫が見られるようになってきた。また、全校交流を来年度も継続し、更に深めていきたい。

幼稚園を含めた異校種交流について職員間で共通理解を深めるとともに、全体会の中で出される反省を次年度からの交流計画に生かしていきたい。来年度の幼保小の連携・交流を更に強めていきたい。

# 札幌市立真駒内公園小学校

〒005-0018

南区真駒内曙町2丁目1-1

## 【学習発表会の劇の公開】

近隣の保育園・幼稚園に連絡を取り、1年生児童の学習発表会の劇の発表に招待をしている。

開校より、1年生児童の発表会への意欲を高めるため、近隣の保育園・幼稚園を招き、学習発表会の劇を発表している。例年、幼保小連携推進協議会の真駒内ブロックの全ての幼稚園・保育園に1学期から連絡を取り、行事予定に組み込んでいただいた。早めに連絡を取った結果、4園の保育園・幼稚園が来校し、200名の園児が1学年の劇を観覧した。



## 【成果】

保育園・幼稚園の園児に発表することで、1年生はお兄さん・お姉さんとして自信をもって発表することができた。また、引率で来校した保育園・幼稚園の先生からは、卒園した園児の成長した姿が見られて感激したという感想を多数いただいた。来校した園児が、小学校の様子や園より大きい体育館を体感することで、新1年生として進学する期待を高めることができたという話を聞かせていただいた。

## 【考察】

幼稚園にとっては年長児が新1年生に進学するに当たって、小学校の様子をつかめることができるという点、小学校にとっては、発表する対象があるということで、目標をもって練習を進めることができるという点で、双方に利点があると考えられる。今年度は、多数の園児の来校にかかわらず、入れ替わりをスムーズに行うことができた。45分間の中で園児の移動・児童の発表が行うことができるよう、他学年との調整を行いながら、進めて



いく必要がある。交流のために新たに練習するのではなく、学習発表会で練習している劇を発表するという点で学校側も、負担無く行うことができている。大がかりな行事にせずに、無理のない連携を行っていくことが今後も継続していく上で大切であると考えます。

## 【まこまない明星幼稚園との連携】

- ・まこまない明星幼稚園は、本校の校区にあり、毎年多くの園児が本校に入学するため、以前より連携を大切にしてきた。
- ・10月に、「なかよくなるろう会」を実施した。内容は、自己紹介、「くじらぐも」の読み聞かせとゲームである。自己紹介では、グループでテーマを三つ決めてお互いを知ろうという目標をもって行った。園児が話しやすいように声をかける姿が見られた。
- ・2月に、「学校をたんけんしよう会」を実施した。1年生は、入学したばかりの4月に2年生に学校案内をしてもらっている。その時のことを思い出し、イメージをもって活動を進められた。また、途中で自分の教室に寄り、そこで学校クイズも行っている。これは、国語のクイズ作りの学習から取り入れたもので、「クイズを園児にも出そう。」というめあてをもち、楽しみながら学習を進めていた。



【体育館でゲームをしている様子】



【学校たんけんをしている様子】

## 【成果】

- ・連携することで、入学する前の園児の様子を見ることができ、入学してから配慮することなどを交流することができた。
- ・児童にとっては、お世話される側からお世話する側に立場が変わることで、園児を思いやり、積極的に声掛けをする姿が見られた。

## 【考察】

- ・毎年継続することによって、年間カリキュラムの中で活動の見通しをもって、交流することができている。
- ・幼稚園と小学校の先生間で話をする場が多くなり、情報交換がスムーズに行えるようになった。
- ・学校と幼稚園の規模の違いにやや課題がある。児童数に比べて園児の数が少ないため、園児1人に対し、児童4人が関わる形になる。また、児童と園児を合わせるとかなりの人数になるため、他の学年が校内にいない日を選んで活動するようにしている。